

第5回 茂原市総合計画審議会 会議録

日時	令和2年6月23日(火) 13:00~15:00
場所	茂原市役所 議員全員協議会室
出席委員	関谷昇、児玉庸夫、石井利明、鈴木秋彦、麻生斎、高貫博樹、田中保藏、中瀬古正彦、中田文昭、中村和嗣、西條博光、飛留間和紀、緑川昭夫、吉田克己、渡邊公治、磯野智由、大塚節子、横堀明子 (計18名、敬称略)
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 茂原市総合計画(案)の変更点について (2) 将来都市像(案)について (3) 基本計画(教育文化の現状と課題)について (4) 基本計画(健康福祉の現状と課題)について (5) その他 3 閉会

【議事要旨】

※時間の関係で議題(3)(4)を先に議論した。

(3) 基本計画(教育文化の現状と課題)について

〈事務局および担当課より説明。〉

【少子化に対応した「活力ある学校づくり」について】

委員：基本計画 p6 の施策 1 において、「小中一貫教育を推進することで、9年間を見とおした系統的・継続的な指導を行い・・・」とあるが、茂原市では本納小中学校で一貫校を推進しているが、この他にも今後小中一貫教育を推進するという理解でよいか。

担当課：本納小中学校では、一貫教育を現在準備中である。他の学校でも学校同士が離れているが、今まで小中連携教育をしており、一歩進めて小中一貫教育を準備していく。

委員：校舎が離れていたとしても、システムとして一貫性を持って進めるということか。

担当課：小学校6年間と中学校3年間の9年間を一つのまとまりとして考え、継続的な指

導を小中学校で力を合わせて進めていくつもりである。

委員：大変期待している。できるだけ早く実現できるように進めていただきたい。

委員：現在、同じ小学校の子が、同じ中学校に進まないという学区編成になっている場合がある。例えば、茂原小の児童は、南中と茂原中に分かれて進学する。子ども目線から見ると、一貫していないのではないか。

担当課：学区に定められた中学校に進学するため、小学校によっては全員同じ中学校に行かない場合もある。友達関係は変わるが、中学校で違った友達関係ができることも期待できる。子どもたちを中心に据えて9年間を一つのまとまりとして指導していくことが、小中一貫教育の考え方である。

委員：私は山武市民である。山武市は合併したため、施設を統廃合している。保護者や地域住民への説明は重要である。山武市では、最初にボタンを掛け間違え、トップダウンで統廃合を進めたため、地域住民は納得していない。そうすると、学校運営ができなくなるため、合併する際は説明を丁寧にする必要がある。

また、親の目線だけでなく、子どもの目線が重要である。山武市では親と子の考え方が違い、親は合併反対だが、子どもは合併して学区も選びたいという考えがある。これらを踏まえた対応が必要だと思う。

【子どもの読書活動の充実について】

委員：茂原市では、乳幼児から小学生までは読書好きな子どもが多いが、中学生から読書から離れてしまう傾向がある。小学校まではいろいろな方法で読書の楽しさを教える機会があるが、中学校の読書活動にも、もっといろいろな施策を講じる必要があると思う。アンケートによると、本が好きな子どもは多いが、読書から離れていく原因を考えてほしい。読書はいろいろな能力の基礎となるものである。

委員：茂原市の駅前の図書館は、開かれているように感じない。駅に近いというだけで良いわけではない。閉じられた箱型図書館ではみんなが使いづらく、現代的な図書館ではない。今までの図書館は、個人が調べて借りて帰るだけだったが、最近の良い図書館はコミュニティが生まれる工夫をしているため、ハード面の整備も必要ではないか。

担当課：以前図書館は八千代にあったが、駅前に移動した。現在は指定管理者が運営し、民間活力を利用している。図書館協議会では、駅前は本来の図書館の姿ではない

という意見があった。現在、市民会館について検討中であり、複合施設として図書館も入れるという議論もあったが、引き続き検討したい。

委員：図書館司書を全小学校・中学校に配置することが望ましい。また、図書館について、指定管理者は工夫しており、利用者が増えているが、もっと学校図書館との連携が必要である。学校図書館は限られた蔵書しかないため、生徒が中央図書館から蔵書を気軽に利用できるようなシステムを構築してほしい。

担当課：今年度、図書館司書を各学校に配置したことにより、成果が上がっている。子どもたちの読む本も増えている。今年度は、週1回程度の学校もあるが、6名の司書を全校に配置する取り組みを進めており、今後日数を増やしていきたい。

会長：時間の関係もあるため、他の意見があれば後日うかがいたい。

(4) 基本計画（健康福祉の現状と課題）について

〈事務局および担当課より説明。〉

【子育て支援の充実について】

委員：人口減少を抑制するために、子育て支援は重要である。他市にないような取り組みが必要である。女性が茂原で子どもを育てて働きたくなる施策を考えていただきたい。女性職員中心で施策を作るとよい。例えば、駅近に子ども施設やスーパーマーケットが集約しているモデル地区を作るなどが考えられる。

【保健医療について】

委員：茂原市に産婦人科はいくつあるのか。

担当課：2院ある。以前より減った。

委員：対策はあるのか。

担当課：議論をしているが、全国的にも産科医が減っていることもあり、画期的な打開策に至っていない。

委員：児童生徒は、学校で歯科検診を受けているが、他の世代では歯科検診はなおざりになっているのではないかと。公的な支援の歯科検診を受ける人は少ないのではないかと。

働き盛りの世代は、時間的に公的な支援の歯科検診が難しい。予防のための歯科検診への支援を厚くし、まちの歯医者でも気軽に歯科検診が受けられる制度など、利用しやすいようにしてほしい。

会長：子育て支援と高齢者福祉は、基本計画でどれくらい連動するのか。放っておくと、それぞれで自己完結していく傾向にある。行政も地域活動も分野で完結してしまう傾向があるため、もっと交わりを増やし、相互に連動できないか。

事務局：基本計画は現在検討中である。他の課との連携や、時間的や空間的視点の検討はまだ十分でない。会長がおっしゃった視点は非常に重要であるため、今後検討していきたい。

会長：本日は時間がなかったため、今後も引き続き意見をいただく時間をとる。

(1) 茂原市総合計画（案）の変更点について

〈事務局より説明。〉

委員：総合計画 p27 の図について、全体像が分かりやすいように工夫をしていただきたい。基本方向の4つの矢印は下を向いた方がよい。

財政の見通しについて、歳入の個人市民税が増収しているということだが、人口は減少するのに増収するのは、税率が上がるということか。

事務局：p27 の図表については、他の部分と合わせ修正する。

歳入について、過去5年間のトレンドを見ると、個人市民税は増えてきている。しかし、長い目で見ると変わるかもしれないため、改めて精査する。

委員：財政の見通しの歳入について、市税よりも交付金の方が多いが、このペースで維持できるのか。少子高齢化で財政は厳しい。コロナで大判振る舞いしたが、それが続くのか。

事務局：過去のトレンドを基に財政を見通している。交付金は、自治体の事業での不足分を国が補填する制度だが、今後交付金が出る保証はない。よって、交付金に頼らないような行財政運営が必要である。

委員：推計について、確固とした裏付けはあるのか。

事務局：歳入については、市の事業実施に伴うものと、固有財源として見込むものがある。
推計はあくまで現時点での見込みである。また、国の指定の事業として行うもので、交付金が出る事業もある。

委員：他力本願にならないようにしてほしい。タイムスケジュールが挙げられていないため、5年間どのように進めていくのか教えていただきたい。地域の水害対策を申し上げて10年以上になるが、進行状況は遅い。歳入についてしっかりと予測してほしい。
歳出の普通建設事業費について、令和3年度で増えているが、市民会館の建設と関係があるのか。

事務局：市民会館建設の分は入っていない。歳入・歳出が釣り合うような数字を作っているが、まだ全体の精査はしていない。

会長：資料1のp22、23の重点課題の部分はだいぶ整理されてきた。P26、27では、時間的・空間的視点で全体を捉えている。時間的は個人の視点とも言え、ライフステージを想定しながら捉えることができる。また、ステージを進めるにあたっての切れ目のない支援がどうできるかという視点でもある。

空間的視点は環境とも言える。ライフステージを進める中で、どのような環境があるのか。同心円のイメージで、家庭、コミュニティ、地区、市域と広がっていく。

基本計画の中では、これらが具体的にどのように落としこまれていくかが書かれる。基本計画では、「施策の対象となる領域」において、各施策がどこに関連するかが書かれる。例えば、資料5のp8学校教育のマトリックスでは、「生まれる・育つ・学ぶ」と「個人・家庭、生活圏域」に網掛けがあり、この部分に深く関わるが、今後学校運営として地域に関わることも考えられる。また、カリキュラムには難しいが、市内での事業者と子どもの連携や、働く場を見るなどの課題活動ができると思う。そのため、「働く」の部分にも網掛けをして、今後推進することができる。

各課の事業が全体でどこに位置するのか、どのように関連するのかについて、各課の職員が考え確かめるのが、総合計画の役割である。

同じように、p22 地域福祉については、「働く」と「老いる」に関連が深いですが、子育て福祉と関連を持たせるなら、そのようなマトリックスを作る。子育て支援では、「生まれる・育つ・学ぶ」にしか網掛けがないが、高齢者福祉とどのように関連できるかを考えるツールになる。詳しい検討はこれからかと思うが、マトリックスを活用して検討していただきたい。

事務局：各課の検討はまだ終わっていない状況である。ご意見を踏まえ、改めて検討して

いきたい。

委員：コロナの影響で都市部から地方へ移住を考える人が増え、オンライン見学会などを開く自治体があるという新聞の報道があった。このような施策を検討してはどうか。

事務局：人口減少対策として、総合戦略を作っている。審議会では、基本計画の後に議論する。総合戦略のうち、移住政策は柱の一つであるため、今後検討していきたい。

会長：新型コロナウイルスでの対応については、位置づけは難しいと思うが、どのような方針で書くのか。

事務局：明確な方針は決まっていない。施設の整備や在宅勤務の促進など、コロナの影響をチャンスにできる施策を考えたい。行政が直接行うのではなく、促進する施策を書いていきたい。

会長：予防対策が問われる一方、このような状況だからこそその可能性をまちづくりに活用することが重要であるため、俎上に載せる必要がある。観光や地域経済のあり方など、これまで通りにいかない中でどのように進めるかを考える必要がある。

(2) 将来都市像(案)について

〈事務局より説明。〉

(意見なし)

【全体に関する意見】

委員：茂原の資源に七夕まつりがあるが、将来につなげるには、大人だけでは限界があると思う。例えば、各学校で七夕クラブを作ってはどうか。子どもたちの目線で七夕祭りのプロデュースをする。茂原学を本の上で行っているが、実践する機会となる。文化クラブ志向の子どもたちも多い。教育委員会との連携を通じ、将来の担い手の育成として検討してはどうか。

事務局：子どもたちが参加できる取組は行っているが、もっと主体的に参加するのは重要であるため、所管課と調整の上検討したい。

委員：重点課題と方向性を決めると、領域がどの課の担当になるのか迷う。それをうやむ

やにすると政策は機能しない傾向にある。部署別に政策を建てる傾向があるため、根回しをして施策を作っていくことが重要である。

委員：健康スポーツに関し、「市民ひとり1スポーツ」の取り組みを行っているが、現在どのくらいの水準になっているのか。競技スポーツも健康スポーツの一部と捉えることもできる。縦割りではなく、色々な分野に横断的に関わらないといけない。茂原はスポーツに関心のあるまちだと思う。

事務局：現在手元に資料がないためお答えできないが、行政だけでなく、地域スポーツクラブで地域住民が指導者を育て、連携する動きがある。色々なスポーツに参加できる先進事例があるため、それを全市に広めていきたい。

(5) その他

事務局：次回の審議会は、7/22（水）14:00 から、本日より同じ全員協議会室で行う。基本計画の安全安心、都市環境の分野と、本日議論した教育文化、健康福祉についても議論する。

以上